

連続シンポジウム

御冠船踊りー

近世琉球の自己表象

第1回 絵巻と唐躍

平成22年3月20日(土) 午後1時～5時30分

沖縄県立博物館・美術館講堂(入場無料)

主催：御冠船踊り研究会 後援：琉球新報 沖縄タイムス

平成20年度～23年度

科学研究費補助金・基盤研究(B)《御冠船踊りの研究-対中日外交の場に生成された琉球の身体-》

板谷 徹(沖縄県立芸術大学)、金城 厚(沖縄県立芸術大学)、細井 尚子(立教大学)【御冠船踊り研究会】

連絡先：〒903-8602 那覇市首里当蔵町1-4 沖縄県立芸術大学音楽学部板谷研究室 e-mail itaya@okigei.ac.jp

連続シンポジウム《御冠船踊り-近世琉球の自己表象-》

近世琉球の宮廷芸能であった御冠船踊り。中国から迎えた冊封使の諸宴に供せられた御冠船踊りは現在の組踊り、琉球舞踊の源であった。このうち端踊り(琉躍)は、御座楽、唐躍(中国演劇)とともに薩摩上国や江戸立の使節に帯同され、おもに薩摩藩主への御膳進上の場で演じられた。中国と日本に対する外交儀礼の場に生成された御冠船踊りは芸能による近世琉球の自

己表現であった。科学研究費補助金により実施する《御冠船踊りの研究-対中日外交の場に生成された琉球の身体-》は、琉球自身が芸能によって自己をどのように表象しようとしたのか、外国が芸能を通して琉球をどのように観たのか、その解明に取り組む。連続シンポジウム《御冠船踊り-近世琉球の自己表象-》はその研究成果を問い、検証する場として開催される。

第1回 絵巻と唐躍

プログラム

第1部 琉球の芸能を描く絵師

報告 板谷 徹 「熊本藩御用絵師杉谷行直と『琉球人坐楽之図』」

コメンテーター 井形 栄子 (熊本県立美術館) 小林 純子 (沖縄県立芸術大学)

豊見山和行 (琉球大学)

細井 尚子 金城 厚

第2部 唐躍の出自

講演 葉 長 海 (上海戯劇学院) 「中国演劇の周辺文化への伝播」

報告 細井 尚子 「唐躍の出自」

コメンテーター 曹 路 生 (上海戯劇学院) 張 福 海 (上海戯劇学院)

豊見山和行 (琉球大学)

金城 厚 板谷 徹